

■住民・第1分科会【事例報告】

◎若狭熊川宿まちづくり特別委員会

○テーマ：「多彩な活動を町並みの次世代継承につなげる」

○発表者：空き家対策部長・宮本哲男

団体所在地：〒919-1532 福井県三方上中郡若狭町熊川

☎0770-62-0330 E-mail: info@kumagawa-juku.com

URL: http://kumagawa-juku.com/

委員数：委員 42 名（会長：河合健一）

会員：熊川区民

設立年月日：平成7（1995）年4月

●熊川宿とは

熊川宿は、若狭湾と京都を結ぶ若狭街道（通称：鯖街道）の宿場町として発展してきました。今も平入妻入の建物が混在して建ち並び、街道にそって前川と呼ばれる用水が流れます。平成8年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。



熊川宿中ノ町の町並み

●まちづくりの歩み

本会は平成7年に発足し、ここに住民が暮らし続けるためのまちづくりを行なっていくことを目標に掲げて事業を展開させてきました。美化活動、広報誌の発行、工芸品の開発、語り部の養成、フォーラムの開催など活動は多彩です。京都から伝わった「てっせん踊り」を80年ぶりに復活させ「熊川宿伝統芸能保存会」が発足しました。白石神社の山車と見送り幕を40年ぶりに復元させました。伝建の修理事業が始まると技術者が集い「熊川宿町並み保存伝統技術研究会」が発足しました。今年で13回目となる秋の観光イベント「熊川いっぷく時代村」は、若手を中心とした実行委員会が盛り上げています。

伝建選定後、様々なハード事業が行われてきました。伝建の修理事業は、現在まで82棟が完了しました。資料館、旧逸見勘兵衛家、熊川番所の整備、道の駅「若狭熊川宿」の整備、街道の景観整備（電線の地中化、前川の石積み護岸、地道風舗装等）が行われました。

●近年の取り組み

伝建選定から10年が過ぎた平成18年、景観整備が進み、観光客が大幅に増えた反面、少子高齢化が進み、空き家が増えました。そこでこれらの新たな課題に対応するため、熊川区は「第二次熊川まちづくりマスターブ

ラン」を策定しました。その後は、そのプランに基づいて、様々な事業が展開されています。主な事業を3つ紹介します。

① 旧逸見家を活用したおもてなし ～自立したまちづくり型経済活動の実践～

観光客が年々増える中で、観光客へのいっぷく処の提供と交流を目的に「熊川宿おもてなしの会」が設立されました。旧逸見家の土間部分を利用し、特産の葛を使った葛ようかんを看板メニューとして「勘兵衛茶屋」を営業しています。平成21年5月からは、宿泊施設として活用を始めました。これらの事業はまちづくり型経済活動と位置づけており、その収益は活動の資金として地域に還元されています。

② 安心して暮らせる、訪れる町へ ～防災まちづくりの取り組み～

平成20年度、町が「伝建地区熊川宿の防災まちづくり計画」を策定しました。住民がワークショップを通じ作成した住民アクションプランを計画に取り込むことで、住民と行政の協働による計画となりました。以後、自主防災会の発足、訓練や研修を行うなど、災害に強いまちづくりを進めています。昨年春には、国庫補助で「近隣火災通報システム」を整備することができました。今年3月、防災まちづくり大賞の総務大臣賞を受賞しました。



前川を水利とした操法訓練（自主防災デーにて）

③ ホタルの育成と伝統食材「熊川葛」の復興

町並みに沿って流れる前川が、平成20年に環境省の平成の名水百選に選定されると、ホタルを復活させようという取り組みが始まりました。熊川宿ほたる生息研究会が発足し、小学生と一緒にホタルの幼虫を育て、今では熊川宿にたくさんのホタルが舞うことになりました。

また古くから京の和菓子に用いられた「熊川葛」は後継者が不足し存続が危ぶまれています。そこで昨年有志が「熊川葛振興会」を立ち上げ、葛の根掘りと晒し作業を始めました。

●熊川宿のこれから

今後、熊川宿をどのように維持して、次世代に引き継いでいくか、さらに熊川宿の魅力が多くの人を惹き付け、いかに応援団から定住者へつなげていくかが大きな課題です。そのためには、ここに暮らす住民自身が、まちに誇りを持ち、交流の中でいきがいを見出しながら、快適に暮らし続けるための取り組みを地道に進めていくことが大切であると思っています。